

相模親善旗杯大磯照ヶ崎旗杯大磯紅葉山旗杯共通
大会規定

大会理事長 岩田情

1. 大会運営に関する事項

1. 天候や試合会場等の都合により、試合会場、日程、時間等の変更が生じる事があります。
2. 試合開始時間が早まることがあるので、前試合が終了後速やかにベンチ入り出来る様に待機すること。試合開始予定時刻の1時間位前までに到着するのが望ましい。
3. 試合開始予定時刻の30分前までに、主催者または会場責任者に、連絡も無しに会場に来ない時は棄権をしたもとして、相手チームの勝ちとする。
4. 大会に参加する全員が、スポーツ障害保険に加入していなければならない。従って、大会会場及び移動中に起きた。被害事故、加害事故、物損事故等は、各々のチームが加盟しているスポーツ傷害保険の適用を受ける。尚、主催者には、いかなる責任も無いものとする。

2. 競技運営に関する事項

1. ベンチは、組み合わせ番号の小さいチームが1塁側、大きいチームが3塁側とする。
2. 試合中ベンチに入れる人員を下記の通りとする。
3. 指導者は、代表者1名、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名、マネージャー1名の計6名、選手20名以内とする。選手は必ず、10名以上ベンチに入らなければならない。
4. 試合開始予定時刻の30分前に、本部席もしくはバックネット裏で、主将と監督が同席の上、メンバー表を提出し攻守をジャンケンで決める。尚、メンバー表にはフリガナを記入し、3部提出する事。 ※ 尚シートノックは原則として行わない。
5. 試合はトーナメント方式とし、三位決定戦は実施しない。
6. ルールは最新年度公認野球規則・全日本軟式野球連盟競技者必携及び、大会特別規則を適用する。
7. 投球制限については、投手は1日70球までとする。
【本塁両端からバッターボックスまでの距離は、学童区画の13cmとし、バッターボックスの区画も学童区画の長辺1m50cm×短辺90cmとする。】
9. イニング数及び試合時間 ホームベース拡大（一般サイズを使用する）
 - ① ※ 6イニングで90分とする。
 - ② 85分を過ぎたら新しいイニングに入らない。
 - ③ 後攻のチームがリードをしていて、なおも攻撃中に85分を過ぎたら試合を打ち切り、後攻チームの勝ちとする。
 - ④ 規定時間を過ぎたときは、イニング数に関係なく正式試合とする。
10. 得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差、5回以降7点差とする。
11. 規定イニング数または規定時間が過ぎても同点の場合は、特別延長戦（最長1イニング）を実施する。 ※ 準決勝戦、決勝戦以外、すべての会場で特別延長戦を行いません。
※ 大会の運営上6回が終了するか、決められた時間が経過して同点の場合は、特別延長戦を行わず、抽選で勝敗を決定する場合がある。
(この場合は、試合の前にグラウンド責任者から、両チームの監督に伝える。)
12. 特別延長戦は無死1・2塁継続打順で行い勝敗が決しない場合は、終了時メンバーの抽選とする
13. 抽選方法
 - ① 試合終了時に出場していた両チームのメンバーが終了あいさつの状態に整列する。
 - ② 抽選用紙に○印、×印9枚記入したものを封筒に入れる。
 - ③ 球審が18枚の封筒を持ち、先行チームより1枚ずつ交互に選ばせる。
 - ④ 審判員が両チームの監督立ち合いの元に開封し、○印の多い方を抽選勝とする。
14. 投手(救援投手を含む)の準備投球は初回に限り6球以内(1分を限度)が許される。次回からは3球以内とする。なお、季節または状況により考慮する。
15. ファウルボールは飛んだベンチ側が回収する。またバックネット前は攻撃側が回収する。
16. 金属バット・ヘルメット・マスク・プロテクター・レガース等の用具は、連盟公認の物(JSBBのマーク入り)を使用する。
17. 打者・次打者・走者・及びベースコーチはヘルメットを着用する。
18. 各試合会場では会場ごとに特別グラウンドルールが設定されているので、会場責任者の指示に従うこと。

2022年 2月10日 役員会に於いて改訂

大会実施要項（新型コロナウイルス感染症予防対策）

- 各チームは選手、指導者、応援者を含む試合会場へ来場する全員の検温等リストを作成し、試合会場到着時にブロック長に写しを提出すること。
写しを提出しないチームは大会への参加は認めないこととする。
リストには氏名、連絡先（電話番号）、当日の体温、体調を記載し様式は特に定めない。
- リストは各チームが責任を持って作成すること。
- 発熱症状のある者は会場への入場は不可とする。なお、発熱症状とは平熱+0.5度程度を目安とし36.8度以上の者とする。（36.8度以下の者のみ入場可能とする。）
- 試合の前審判は、入場時に2名分の検温等リストの写しを提出すること。
- 各チームの入場可能な車両は5台を厳守することとし、応援の保護者も同時に入場すること。
- 途中入場者は管理が困難であるため、原則として入場不可とする。
- 選手登録は最大16名とし、ベンチ入りしない選手は入場させない。（帯同させない。）
- ベンチ入りできる成人は監督、代表者、コーチ2名、スコアラー1名、母2名による介助員とする。（指導者の介助員はコーチと混同するため認めない。）
- 会場において、複数チームが混在しないよう試合終了したチームは速やかに退場すること。後審判のチームは、審判2名以外の関係者は同様に退場すること。
また、入場については試合予定時間の30分前以降とし、会場周辺での待機とならないよう留意すること。
- コールドゲームがあっても原則として試合時間の繰り上げは行なわない。
- 試合は6回戦、試合時間90分経過後、新しいイニングに入らない。同点の場合は、特別延長は実施せず、即、抽選により勝敗を決する。
- 後攻チームがリードしていて90分を経過した時点で後攻チームの勝ちとして試合を打ち切る。
- 1日の投球数は70球制限とし、当該打者まで投げ切り可能とする。
- 投球数は本部において、計数し本部から球審に伝える。
- 試合開始、終了時の挨拶はベンチ前でのみとし、エール交換は無しとする。
- 各チームにおいてアルコール等消毒液を持参し試合後は、ベンチの消毒を実施後に次チームに明け渡すこと。
- ベンチからの審判への給水は行なわず、審判は水分等を持参すること。
- グラウンド外では、全員マスクを着用すること。グラウンド内での選手及び塁審3名は、マスクを着用すること。
- 球審はマスクを着用すること。
- 用具のチェックは、各チームにおいて責任を持って行うこと。
- 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、大会を中止にする事もあります。ご了承願います。
- 新型コロナウイルス感染症予防対策として、各チームにおいて責任を持って行うこと。

以上